

7/19 記者会見

1. 内容（※別途資料を説明）

①スポーツツーリズム推進事業開始

スポーツ芸術活動の合宿や大会で、多くの方に外から来ていただくことで、市内の飲食店、宿泊施設の利用による経済活動の活性化につなげたい。また、つながりを持ってもらうことで見附を好きになっていただくなど、関係人口の増加を目的として、スポーツツーリズム推進事業を今年度予算計上して取り組みを進める。

②中学生スタディツアーin ダナン

平成 20 年度から実施していたダナン中学生派遣事業は、コロナの影響で休止していた。昨年、ダナンを訪問し協議した結果、今年度から再開することになった。8 月 6 日から 14 日の、7 泊 9 日の日程で、中学生 10 名を派遣。事前学習会が 5 月から始まっており、7 月 30 日の出発激励会に出席する。

③加圧式給水車・設置型組立式給水タンクを導入

加圧式給水車の導入と併せて設置型組み立て式給水タンクも導入。昨年度予算で整備。災害等により大規模な断水が発生した場合でも迅速に水を提供することができ、緊急時の応急給水体制が大幅に強化される。また大規模災害時、被災した全国自治体への応援も今後可能となる。

④7.13 水害 20 年プロジェクト

今年、新潟福島豪雨から 20 年の節目を迎える。豪雨を振り返ることで、災害で得た教訓を次世代へ継承し続けていくことを目的に、7.13 水害 20 年プロジェクトを国が中心となり実施する。関係自治体と一緒に、実行委員会を組織して取り組んでいるプロジェクト。見附市長が実行委員会の会長。すでに開催中のパネル展では、当時の被害状況やその後の取り組みを紹介している。

⑤定額減税調整給付金の通知発送

全国的に定額減税が行われており、そのための調整給付金支給も全国的に行われている。市では、公金の受取口座が登録済みの方等に対して、速やかに給付金を受け取ってもらえるようプッシュ型で、手続き不要な形で給付する。7 月 30 日に通知文書を発送予定。手続き不要の方が全体の大体 6 割ぐらいになる。8 月 13 日に初回給付ができる見込み。コールセンターは、7 月 22 日から設置する。

2. 質疑応答

質：新潟日報

- ・①番の「スポーツツーリズム推進事業開始」について、例年、対象となる団体はどのくらい来ていますか。

答：地域経済課長

- ・詳細なデータがないですが、令和４年度の実績は、人数や泊数は違いますが、21 団体が合宿で来ています。遠征や大会などを入れるともう少し多くなると思います。

質：新潟日報

- ・夏休みなどの長期休暇が中心ですか。

答：市長

- ・そうです。野球やサッカーで来ている方が多いです。来ていただいた方に、見附を好きになってもらうことが大事かなと思いますし、引き続き見附のファンでいていただけるような取り組みができればなと思います。

質：読売新聞

- ・受け入れ体制はどういったところがありますか。宿泊施設や、施設面でのキャパシティはどのくらいでしょうか。

答：市長

- ・大きな宿泊施設や、小規模のところとあります。それぞれに分散して受け入れています。宿泊施設で積極的に自ら、スポーツ誘致、合宿誘致に取り組まれているところもあります。

質：読売新聞

- ・屋外合宿での利用が多いですか。

答：地域経済課長

- ・宿泊施設が市内に 8 か所、収容人数は全部で 500～600 人ほど。野球やサッカーなど屋外の利用が多いです。マーチングバンドなどは、体育館を使って練習することもあります。

質：見附新聞

- ・⑤番の「定額減税調整給付金の通知発送」について、対象人数はどのくらいになりますか。また、交付金の受取口座を登録済みの方は、マイナンバーカードとの絡みなのかそれ以外にもあるのか、全体の対象者人数と、公金受取口座を登録済みの人数、それ以外の手続きが必要になる方の人数を教えてください。

答：市民税務課長

- ・対象者は、現時点では約 8,100 人が対象です。公金受取口座を登録済みでプッシュ通知でお知らせできるのが、約 5,100 人。こちらは、マイナンバーカードや市県民税の引き落とし口座を登録していた方、還付等で口座を使っていた方を合わせてこのくらいになります。口座の登録が必要となる方は、約 3,000 人になります。

質：読売新聞

- ・③番の「加圧式給水車・設置型組立式給水タンクを導入」について、県内の導入状況はどうなっているかデータはありますか。

答：市長

- ・導入している自治体は結構多いです。なので早い方とは少し言えないかなと思います。

質：読売新聞

- ・今のところ、そこまで大きな災害がないので、実際稼動はないと思いますが、応援のときに求められるという形になりますか。

答：市長

- ・そうです。被災地への応援となると加圧式での応援が求められるので、応援にも行きやすいという部分があります。それよりもまずは、見附市で断水とか起きたときにしっかりと対応できるという方も、より重要だと思います。

質：読売新聞

- ・加圧式のメリットは、置いてあるタンクに入れられるっていう点が一番のメリットですか。

答：市長

- ・少し高いところに置いてあるタンクへ入れられるようになるというのが一番のメリットだと思います。

質：読売新聞

- ・今までは給水車が、待っているような形だったのが、据え置きにできるので給水車が入れば、次から次へと、忙しい時は回っていけるということですか。

答：市長

- ・回っていきますし、注ぎ口も付いてもいるので本当にスピーディーに給水作業ができるようになるかなと思います。

質：見附新聞

- ・①番の「スポーツツーリズム推進事業開始」について、2泊以上の宿泊ということなので、野球で言えば、元町運動公園の球場で試合をしなくても宿泊すればいいということですね。あと、意外と目に付くのが佐渡の高校生が見附に泊まっています。大会などがあるとき、船で新潟市まで来て、そこから実際の宿泊地へ移動する際にカバーしてくれる業者がなかなかないようです。そこは市内の業者が協力的にやって、例えば高校総体の県大会でこの近辺で大会があるときに泊まっているとか、こういうスポーツの大会なので、勝ち負けがあって2泊することになって難しい場合があるのかもしれませんが、例えば、見附市と佐渡市と何か行政側で連携して、「佐渡の皆さんいらっしゃい」というのがあってもいいのではないのでしょうか。今ふと思いついたことを話していますが。行政レベルで、港から宿泊地までの移動を見附市としてカバーしてあげるとか。長岡や三条で大会があれば位置的には非常に利便性のあるところにあると思うので、そういう発想があってもいいのではないかと思います。

答：市長

- ・ありがとうございます。一つアイディアをいただいたかなと思いますので、その辺の費用も含めて宿泊事業者さんとも協議しながら検討させていただければと思います。